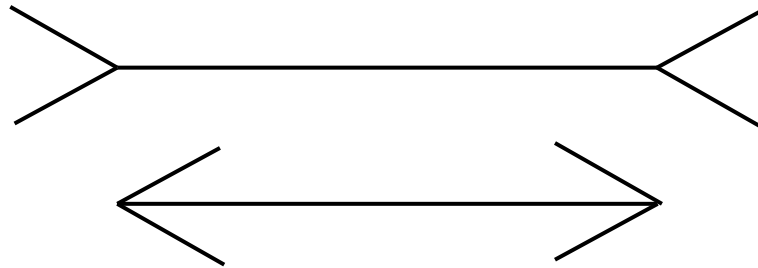




## 〇いろいろⅡ

続きです。前 135 号では色のいろいろということで色の対比などについて記述しました。明度対比などはある意味目の錯覚といえるでしょう。似たような錯覚のことで「錯視」というものを思い出しました。ごく簡単に説明するならば色と形の錯覚といえるでしょうか。調べてみるとありとあらゆる錯視の例が示されています。下のものは有名ですね。水平線の長さは同じですが、違う長さに見えます。

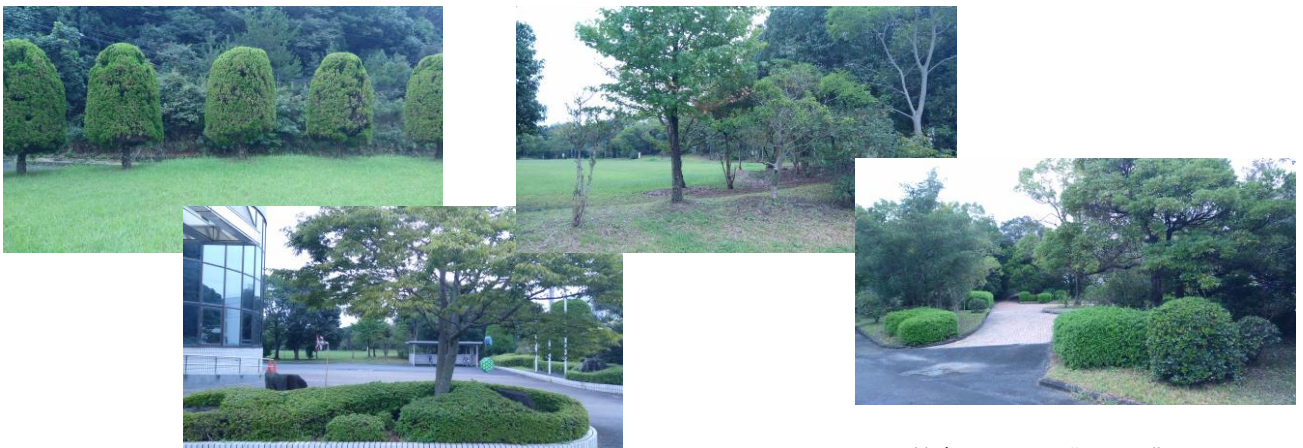


服装の様様では縦縞と横縞の使い分けで、スリムに見えたり、ふくよかに見えたりということもありますね。今は縞柄のことをよくボーダーという表現をします。しかし言葉の意味を調べてみると“ボーダー柄=横縞”というのは誤解だそうです。本来「ボーダー」というのは「縁、周辺部」という意味です。そういえば入試などで「合格のボーダーライン」というと合否の境目という感じで使われますね。本来は靴下やシャツなどの袖口の縁のラインのことを指しているそうです。調べてみると面白いことがたくさん見つかります。

前号は色彩学習の内容から始まりました。少しもとにもどしてみます。今年は8月後半から9月初めにかけて例年よりも雨が多く降っています。災害のあった地域では大変な思いをされています。災害がない場合でも雨降りは少し気持ちが沈みますね。しかしここで、あえて雨降りのよいところを取り上げてみます。

造形の授業ではそのうち水彩画の学習をする予定です。学生たちには知識として水彩描法の基礎を身につけてほしいと思いますが、描く技術よりも観察する目と心を成長させてほしいと願います。そのアドバイスの中の一つです。風景など、雨降りの濡れた状況の方が色が鮮やか（濃い）であるということです。葉の緑やアスファルトの地面においても乾くとやや色が薄く見えます。「濃い」とか「薄く」という表現はあまり専門的ではありませんが。理解していただければと思います。

## 〇自校自賛



雨に濡れた校舎の周りの“みどり”たち